

発行：八戸市立市川中学校地域学校連携協議会
校長：馬渡教二 会長：小向龍悦

藤田又右衛門による開墾②

【Ⅰ】藤田又右衛門の業績（開墾記念碑文の簡略現代語訳）

昔、市川村の尻引あたりは大変荒れた土地でしたが、江戸時代の天保七年(1836)に南部藩士の藤田又右衛門が藩にお願いし、この土地に初めての開墾事業を起しました。

又右衛門は五戸村の人で、父の名前は武兵衛。親子代々藩に仕え、人々の役に立ちたいという気持ちの強い家柄でしたので、開墾を一生の仕事にすることを心に誓いました。仕事は、難工事や悪天候等で何度もつまずきましたが、どんな事にも屈しませんでした。

年月を重ねること21年。多くのお金を開墾の仕事に使い、一家の財産はほとんど無くなりましたが、安政3年(1856)になってようやく事業が終了しました。用水は上市川の水門より2里(約8km)にわたって流れていました。これによって開墾された土地は160町歩(約160[㌧])に及び、人々は感謝の気持ちをこめて又右衛門堰と呼びました。(以下、途中省略)

明治34年(1901)、神明川原普通水利組合は多くのお金を使って又右衛門が作った水門を改修しました。それによって現在の水田は260町歩に達しました。

何事も待っているだけでは物事を成し遂げることはできません。又右衛門のように自分は人々に何をしてあげられるのかをよく考えて物事を始めれば、すべてよく仕上がるものです。

ここに開墾記念碑をたて又右衛門の成し遂げた事業の由来を刻み、後世に伝えるものです。

大正5年6月 市川村神明川原普通水利組合 建立



新頭首工完成記念碑



新頭首工全景(揚水していない時)

【Ⅱ】新頭首工の完成について

昭和56年(1981)には新頭首工(写真右)が完成し、五戸川右岸(神明川原用水)と左岸(中川原用水)を合わせると、市川と上市川のかんがい面積は638[㌧]。組合員は998名に及んでいます。完成記念碑(写真左)には、当時の青森県知事が揮毫した「水ありて農栄ゆ」という言葉が刻まれています。皆さんも一度行ってみたいはいかがでしょうか。(場所は北市川橋の近くです。)

八戸市立市川中学校地域学校連携協議会教育コーディネーター：木村 隆一

参考資料：「五戸町誌」「流れる五戸川」
伊藤勝司「藤田又右衛門開墾記念碑」

